

地域密着型サービス 運営推進会議 報告書 （提出日R8年9月 24日）

事業所名	定期巡回ステーション コピーヌ
事業所の種類	定期巡回随時対応型訪問介護看護
開催日時	令和8年9月17日（木） 10：00～10：30
開催場所	有料老人ホーム コピーヌ なかま
参加者	中間市役所介護保険課：入江様 なかま病院：和田様 一般社団法人クレイン：代表理事；中村永俊、理事；岩根久嗣、事業部長；中村直樹 定期巡回ステーション コピーヌ：磯田沙也香、長尾望、安部田優子、日谷真里、末永真知子
利用者状況	事業対象者：11人 要介護1：3人、要介護2：3人、要介護3：2人、要介護4：2人、要介護5：1人
平均年齢	男性：91歳、女性：86.6歳 全体：87.8歳
研修実施状況	R8年4月 衛生管理（感染症）研修 R8年4月 高齢者・障害者虐待について、個人情報の取り扱いについて R8年5月 心肺蘇生訓練 R8年6月 BCP研修・訓練 R8年8月 接遇研修
配布資料	別紙

会議内容	1. 利用状況、活動報告、事例紹介（別添資料参照） 2. ご意見、ご質問 別紙参照
次回開催予定	R9年3月 開催場所：有料老人ホーム コピーヌなかま

【会議内容】

ご意見・ご質問

和田様：

- ・利用状況について。地域包括支援センターからの依頼が多いようですが、その他には？→ケアマネジャーからの相談・依頼が多い状況。病院様からの紹介は少ない。
- ・定期巡回を選定する大きな理由は？→生活の実態がつかめず、状況把握のために1日に複数回の訪問が必要な方は定期巡回を利用することが多い。利用者様自身に認知症があったり、独居だと特に情報が不足するため、この場合も定期巡回を利用することが多い。自立度が高かったり、支援の内容が明確な場合はヘルパー等を選択する傾向にある。
- ・病院への受診拒否や入浴拒否はもともとの性格なのか？→病院受診の拒否はもともとの性格であることが多い印象がある。入浴の拒否は認知症の症状も関係しているのではないかと。現在介入中の方は、ご家族様との関係性も影響しているように感じる。
- ・地道に支援をされていると感じる。→介護拒否にならないよう、慎重に関わることもある。利用者様によっては、介護サービス事業所とわかれると、料金が発生するため介入を拒否される可能性がある。そのため、行政の職員という設定で訪問をしている方もいる。反対に依存的な傾向にある方もいるため距離感に悩むことも多い。
- ・苦情はご本人様から？ご家族様の受け止め方は？→苦情はご本人様よりあり。ご家族様は当初は事業所への理解も示されていたが、ご本人様とお話をされたあとは、ご本人様の意見も尊重されている様子。

入江様：

足浴の取り組みを行われているが、清拭等はどうでしょうか？→清拭はまだできていない。拒否が強く、足浴・爪切りができたこともステップアップであると感じている。ある程度自立をされている方なので、自尊心を気づけないように注意している。

中村代表：

苦情等に関して、認知症がある方でも訴えはお聞きすることを徹底する。定期巡回は通常の介護事業所とは異なると感じている。ご本人様・ご家族様・ケアマネジャー・行政との情報共有が重要。